編集委員退任にあたって

2012年3月をもって，4年間務めた編集委員を退任いたしました．編集の専門家でもなく，慣れない仕事でどこまで読者の方々の期待に応えられたのか，はなはだ不安ではありますが，この期間，会誌をご愛読いただいた読者の皆様にお礼申し上げます．また，執筆をお願いした著者の方々には，特集全体の構成やまとまり，記事の読みやすさなどを優先し，いろいろと無理なお願いを聞いていただきました．併せてお礼申し上げます．

この4年間を振り返って，最も記憶に残っているのは，3カ月連続で，「音声認識技術の実用化への取り組み」,「画像認識技術の実用化への取り組み」の特集，「音声・映像認識連携への取り組み」の小特集を担当させていただいたことです．当初は音声認識の特集だけを想定して提案しましたが，編集委員会で議論する中で，認識技術を連続して特集したらインパクトが増すのではないかとのご意見をいただき，3カ月連続での特集となりました．

山之内 徹（日本電気（株））

それぞれ，ゲストエディタの方と相談しながら，記事構成の検討，著者の方々への依頼，原稿の確認と著者の方々とのやりとり，最終校正などの編集プロセスをパイプライン的に回していきましたが，この期間，工数的にはかなり大きな負荷となりました．しかし，最初の特集で得た反省事項はすぐ次の特集で反映でき，徐々に効率よく編集することができるようになったと思います．

効率よく，良い特集を編集するポイントは，企画段階で著者の方々と双方向のコミュニケーションをよく取ることに尽きると思います．特集の目的と各記事の位置づけを描きつつ執筆を依頼し，著者の方々の持ち味をお聞かせいただきながら特集の構成を微調整していく，このプロセスがとても大切だと思います．最初の音声認識の特集が掲載され，画像認識特集の印刷が行われている頃，読者の方々から寄せられたコメントの中に，「次は『画像認識技術の実用化への取り組み』の特集を期待します」というものを見つけたとき，心の中で「やった！」と叫んでしまいました．

もう1つ，こちらは私が担当したわけではありませんが，この4年間に編集委員会で多くの新しいチャレンジを行ってきたことも，とても刺激になりました．季節に合わせた特集を組んだこと（夏休み特集や時の記念日特集など），そのために8月号は夏休み前に読者の方々にお届けしたいと一月前倒し発行を可能にするための合併号を発行したこと，著名人による巻頭コラムを掲載したこと，夏休み特集にペーパークラフトの付録を付けたこと，などなど．インターネットが普及浸透し，学術情報もどんどんインターネットで収集できるようになった現在，学会誌にも企画力が求められていると思います．今後の編集委員会に対して，これまで以上にさまざまな企画にチャレンジし，読者の方々の反響を参考にしながら良いものを継続し，さらに新しいことにチャレンジする，このプロセスを回すことで，より魅力的な学会誌に発展させていただきたい．よろしくお願いします．

（2008年～2011年度編集委員）